

【24 卒】夏インターンの特徴：複数プログラムの連携

先週から日系企業の 24 卒向け夏インターンの特徴をお伝えしています。

今週は、夏インターンを含む複数プログラムの連携について事例をご紹介します。

なお、夏インターン全般については、6/22 号、6/29 号、7/6 号にて、業界別概況と個社情報をご紹介します。

9/7 号「9 月の採用市場ウォッチポイント」でもお伝えしましたが、早期施策が活発になるにつれ、接点をもった学生の途中離脱問題がクローズアップされています。

インターン参加者フォローで最もよく見る例は、参加者限定の社員座談会やフィードバック面談、社員面談などの少人数／個別の限定イベントです。また、リクルーターやメンターが定期的に接触するオーソドックスな「リクルーター制」も一部メーカーや金融を中心に健在です。

他方、複数のインターンやイベントを連携させ、1つのパッケージとして案内するケースが徐々に増えています。企業にとっては接点が増えることで、段階的・計画的な企業・仕事理解、社員とのつながりの深化が期待できます。また、学生側の拘束時間が長く負荷も高い形式のため、応募自体がスクリーニング機能を果たすことも考えられます。

複数プログラムの連携の典型的な事例には、三井住友海上の総合社員（総合職）志望者向け「MS College」などがあります。日程・内容等の異なる各種プログラムを組み合わせ、「中長期型キャリア支援プログラム」としてインターンサイトに公開しています。

以下、複数プログラムの連携のケースをご紹介します。

▼ケース 1：三井住友海上

総合社員（総合職）志望者向けに、任意／必須参加の各種プログラムを組み合わせた「中長期型キャリア支援プログラム」である「MS College」を運用。

《必須》MS インターンシップ(4days/5days)／アクチュアリーインターンシップ(4days)

《任意》MS インターンシップ Plus(1day)／アクチュアリーインターンシップ Plus(1day)

《任意》MS インターンシップ Premium (4days)

・インターン参加後に再度選考で選抜→次のインターンにつなげていくパターン。23 卒では「MS インターンシップ」参加者から選抜→「MS インターンシップ Premium」参加者か

ら選抜→ビジネスコンテスト（2月）参加者は本選考で最終面接のみに

- ・複数日程の「MS インターンシップ」に参加できない学生向けに「MS ワークショップ」（1day/2days）も準備
- ・IT・デジタル系や資産運用などの志望者には別に「Specialist Internship」（2days）を設定

▼ケース2：農林中央金庫

《必須》「インターンシップ説明会」6/10～ オンライン（オンデマンド視聴）

《必須》「2days ベーシックプログラム」8～10月 オンライン

《選択》「ビジネス別プログラム」9～12月 コースにより形式異なる

- ・マイページで「インターンシップ説明会」をオンデマンド配信し、連携プログラムの構造を説明。なお、同時に「会社説明会」もオンデマンド配信
- ・ビジネス別プログラムについては、23卒ではあらかじめ設定された複数日程からビジネスごとに参加日を選択、計5回もしくは6回（日）参加する形式。学生からは「他のスケジュールと折り合いがつけやすく、助かる」と高評価

▼ケース3：三井住友カード

《インターンのコースにより必須》「SMCC Workshop」1day/5月末～11月 オンライン

《選択》「SMCC Business Academy」コースにより 1day・3days/8月～1月 オンライン

- ・インターン先行イベントという建付けの「SMCC Workshop」は選考なし。1.5hで業界・企業説明と人事部質問会を開催
- ・インターンはマーケティング/新事業企画/データ分析の3コース設計。マーケティングと新事業企画の応募者はWorkshop参加が必須
- ・上記とは別に「最難関コース」として「Premium Internship」（3days、12月）も公開。社内で検討中の次世代キャッシュレス戦略をテーマにしたビジコンで対面開催予定

▼ケース3：三井住友銀行

「5days Internship Program」8～9月 対面

Day6 Field（フィールドを知る）10月頃

Day7 Career（キャリアを知る）11月頃

Day8 Future（行員を知る）12月頃

- ・5days 参加者は全員「プレミアムイベント」として Day6～8 に招待されることをインターンサイトで明示。また、Day8 以降もイベントは継続予定
- ・段階的に企業理解を深め、キャリアをイメージさせていく形
- ・毎月の定期イベント参加が「優遇につながるのでは」と学生の期待を誘う可能性も高い

▼ケース5：関西電力

《必須》インターンシップ予選会「-Pre-」7月 オンライン

《選抜》「Internship -Real-」3days/8月 オンライン

《必須》インターンシップ予選会「-Pre-」9月 オンライン

《選抜》「Internship -Frontier-」2days/10月 オンライン

- ・ES、WEB テストのほか、予選会のグループディスカッションで選考を行うのが特徴。予選会でのディスカッションテーマは「今後、注力すべき事業分野」といった重めの模様

複数プログラムのパッケージ化は設計に手間はかかりますが、上記で述べた点以外にも、最初に全体を見せることで学生がスケジュールの見通しを立て、都度自分の位置を把握しやすいため、安心感を与える効果もありそうです。

なお、早期接点から本選考への連携や、自社に適した効果的なフォロー、学生の評価等のご相談は、アドバイザーもしくはコンシェルジェをご利用ください。

本メールの下方「お知らせ」でご紹介しています。